



新年あけましておめでとうございます



冬休みが終わり新しい年を迎え、幼稚園には元気な声に戻ってきました。三学期は、まとめの時期です。意欲的に日々の生活を送るためには、少しくらい失敗しても気にしない、挑戦心や自立心と、友だちの存在が大切です。出来ることが増えた喜びを実感できるように、褒めたり励ましたりしながら、自信を持たせていけたらと思います。



## お金の使い方

幼稚園に来て、「お年玉いっぱいもらったよ」と多くの子から報告がありました。子どもにとっては、うれしいことですね。

しかし中には、「お父さんから1万円、お母さんからも1万円、おじいちゃんからも1万円もらった」と言う子もいて、心配になります。あまり大きな金額の場合は、子どもに持たせておくのではなく、口座を作ってあげましょう。お金を子どもに持たせて、欲しい物を買うためにパッと使ってしまったら、お金はいくらあっても足りません。大人になるまで貯めておくことを教えた方がいいです。お金は湧いて出てくるものではないのですから。

最近では、キャッシュレス化が進み、買い物をする際にもカードやスマホ、ネット上で決済ができるようになり、現金のやりとりをする機会が減少する傾向にあります。一方で、スマホを持たせ始める年齢は年々下がってきており、小学生でもマイ・スマホを持つ子が増えてきました。親が知らないうちに、多額の課金をしてしまう子もいるそうです。

今の世の中は、子ども達にとって、「お金は働いて稼いで得たもので、商品を買う道具」という認識を持ちにくい状況になっています。実際に、「お金が無い」と言うと、「銀行から貰ってきたらいいさ」と言う子も珍しくありません。

スマホを持たせる前から、「お金はとても大切なもの。よく考えて、本当に必要なものを買う時に使う」ということを教えていきましょう。日頃の生活を通して、お金の価値や感覚を身に付けることが、大切です。例えば、一緒に買い物に行くときに、保護者が同じ商品を見比べて、「どっちが安いかな」「どっちが得かな」と考える姿を、子どもに見せるだけでも良いと思います。将来、幸せに暮らす方法の一つとして、お金を管理する力を我が子にプレゼントしてあげたいですね。

## 「気になる姿」から考える、子育て10か条 その3

～言語聴覚士・精神保健福祉士 湯沢英史 氏～

### 7. 自己主張が強すぎる子ども

- 「ぜったいイヤだ」と言い張る
- 嫌なことはしなくていいと思っている
- 「きらい」と言って、やろうとしない
- 「ちょっと暑い」など、程度を言えない
- 乗り越える体験をしようとしていない



#### 「感じ」を克服する力をはぐくむ

「疲れた」「暑い」と感じるのは自分です。ただ、自分の「感じ」を主張しすぎると、周りには不平不満に聞こえ、嫌な思いを持たせます。一方で「感じ方」は、社会性が影響します。

子どもは、4歳くらいから自分の「感じ」に程度をつけるようになります。「ちょっと」なら「大丈夫、我慢できる」と思うようになります。感じ方を意識しだしたと言えます。6、7歳になると、「暑いけど歩いた」「疲れていたけれど、やれた」というように、自分の「感じ」をのりこえていくことに誇りをもつようになります。

「きらい」という表現を使う子には「苦手」と言い換えさせ、克服できることを伝えましょう。

### 8. がんばろうとしない子ども

- 努力を嫌がる
- お兄ちゃん、お姉ちゃんになりたいという意欲が薄い
- めげてしまいがちである
- よくすねる



#### 取組の過程を励ます

子どもは本来、失敗にめげず果敢に挑戦し、色々なことが出来るようになっていきます。失敗にめげない状態を、「自己安定感がある」ということがあります。子どもが徐々にできるようになるのは、自己安定感の支えがあるからだとも考えられています。「できる目標を与え、途中の頑張りを認め励まし、結果だけで評価しない」ことが、子どもの自己安定感を高めます。

特に大切なのは、取組の過程における「頑張っているね」という承認と励ましであり、あわせて「きっとできるようになるよ」と見通しを与えることです。

続きは次号にて…